

# いきいきまーち

春号

NO.81

～ みんなが生き生きと暮らせる街に♪ ～

[創立100周年記念号-4]

特集「創立100周年を迎えて～楽しみな未来～」



ホームの新しいキャラクター

## 主な記事

連載 ●栄養士のパレット 第47回  
「自律神経の乱れに注意」

◎2024年度事業における法人の方針

◎第三者評価の受審

発行



社会福祉法人

東京老人ホーム

# 「私たちの未来 ～希望へのスタート～」

理事長 徳野 昌博



使徒パウロがこんなことを言っています。「苦難をも誇りします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」(『ローマ

の信徒への手紙』五章三～四節)。パウロは「苦難をも誇る」と言うのです。私たちは、どうでしょうか？ 苦難は愚痴を生み、愚痴は投げやりを生み、投げやりは絶望を生む、こんな感じではないでしょうか。



「誇る」は、「喜ぶ」と訳されたりもします。パウロは、苦難の中にあっても、喜ぶことができるし、誇ることができると言うのです。そこでの喜び、誇りとは、自分をしっかり力強く持つことです。ひそかに、陰険に自分に固執するのではなく、堂々と、公然と、かけがえのない存

在である自分を示し、自分らしく生きることです。それは、鼻持ちならない自信ではなく、健全な自信です。コロナ禍にあって、私たちは苦難を味わいました。その苦難の中で愚痴することもありませんが、忍耐することを確かに学びました。パウロは、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を」と展開していきます。「練達」、これは、聖書ではめずらしい言葉で、パウロの手紙にしか出てきません。パウロはこの言葉

が好きだったのかもしれない。「練達」と聞くと、どういうイメージを持つでしょうか。パウロの別の手紙では、この「練達」と言う言葉が、「試す」と訳されたり、「結果」と訳されたり、「確かな人物」と訳されたりしているのです。「練達」とは一見結びつかないように思うのですが、同じ言葉です。つまり、「練達」は、「試し」、

吟味し、その「結果」、「確か」であることが証明されると言う成熟への過程そのものだということです。

ですから、「忍耐は練達を生む」と言うのは、修行僧が難行苦行して、自らを鍛え上げると言うよりは、苦難に耐える中で、金属が火で精錬されて不純物が取り除かれ、純度の高い本物になり、本物ゆえに、確かなものとされる、そんなイメージではないでしょうか。

イエス様の十字架には、私たち一人ひとりに対する神様の愛が示されています。この神様の愛ゆえに、私たちは自分をしっかり持つことができず。それは自らに由るところの自由でもあります。自らに由って、私たちは苦難から忍耐、忍耐から練達、練達から希望へと歩んでいきます。創立百周年を祝い、第二世

紀へと歩み出した私たちは、この希望を抱いて、未来に向かってスタートします。希望は人間の精神が最も目覚めている状態です。それは情性的でなく、自覚的です。ずるずるべったりではなく、決断的です。ですから、まんねりや投げやりの入り込む余地はありません。

飛行機は、空中にあって前進している限り、空に浮かんでいます。私たちの東京老人ホームは、希望を翼に前進します。そうすることによって、逆風の苦難をも貫いて進むことができてしまう。

そう、パウロは最後に、「そして、希望は失望に終わることはない。なぜなら、神の愛が私たちの心にそそがれているから」と言っています。

お一人おひとりの上に、主なる神様の豊かな祝福、励まし、慰めがありますように。



# 二〇二四年度事業における法人の方針

## 二〇二四年度事業計画より

### (一) 事業経営の理念

東京老人ホームは、昨年一月一三日に、創立百周年の記念日を迎えました。その日、予定通りに記念礼拝、記念式典を執り行いました。来賓を迎え、利用者様、職員皆で祝い、感謝と喜びを分かちあえたことは、今後の歩みに大きな力となるでしょう。この日に向けて長きにわたって、日常業務に携わりつつ準備してくださった職員各位に敬意を表しました。本当にありがとうございます。

未知の第二世紀へと歩み出した私たちですが、これまで同様、時が良くても悪くても、原点回帰、出自の確認が大切であることは変わりません。当法人の原点は、関東大震災の被災者の支援活動です。創立者たちは、大震災で被災した人々に、その中でも、「最も弱い方々」に支援の手を差し出し

したのです。

「最も弱い方々」。それは、身寄りのない高齢者と、親を失った子どもたちです。東京老人ホームは高齢者を、姉妹施設のベタニヤホームは子どもとそのお母さんたちをと、それぞれ役割を分担して、その支援に乗り出しました。その活動が私たちの「初めの一步」です。この支援の活動はやがて組織を伴う事業に拡大し、今日に至っています。

事業の創設に関わった人たちは、「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(『マタイ』による福音書)第二章四〇節)とのイエス・キリストの言葉を聞き、その言葉に押し出されるようにして、この事業に着手しました。それ以来、東京老人ホームは、このキリストの言葉と、そこに込

められた愛の心を継承し、活動してきました。

私たちは、ご利用者一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、喜びをもって生きることが出来るコミュニティ実現のために、祈り、力を尽くして、この道を歩んでいきます。このキリストの愛の心に共感し、共有しつつ、共に働く仲間を求めています。

### (二) 事業経営の現状

二〇二〇年から新型コロナウイルスとその変異株による感染症がまん延し、従来の体制、業務形態をそのまま維持するのが困難となりました。その都度、創意工夫しつつ対応してきました。昨年、ようやくコロナウイルスが第五類に移行し、手かせ足かせがひとまず取り除かれた状況になりましたが、現場の緊張は今なお続いており、油断はできません。

ん。利用者様には不自由を我慢していただいている面も今もあります。ご理解いただきたいと思っています。

コロナ禍で休止していた事業の中には、活動を再開したのもありますが、感染症を念頭に細心の注意を払っています。これらの活動は、「利用者、家族、地域の方々と共に、希望、喜び、人間としての誇りを分かち合って生きるコミュニティの実現」のためのもので、さらなる展開を目指します。

### (三) 事業経営の課題

最優先すべきは、常に変わらず、「利用者の方々」が安心して、心豊かに毎日を過ごすことができる環境とサービスの提供です。この実現、充実のために、キリストから託されたミッション(使命)と、パッション(情熱)を忘れず、原点回帰と百年積み重ねてきた介護技術のレベルアップ、快適性の追求を目指して努力を続けていきます。地域の方々、変わらぬご理解とご支援に、深く感謝いたします。





創立百周年を迎えて 「楽しみな未来」

ホーム長 高橋 睦

【創立から百年】

私たちの先輩は創立時の働き人たちは、関東大震災の被災の中であつたにも関わらず、具体的に支援を始めました。自身の安全の確保も、食事も満足に得られない状態だったのかもしれませんが、それでも目の前にいる、住まいや家族を失った高齢者に愛の手を差し伸べたのです。この時の思いは百年間引き継がれてきました。とはいえ簡単なことではなく、そこには重要な考え方や姿勢つまり「使命」を感じ、その上で引き継がれてきたと考えられます。



「手を差し伸べる」というキリストの愛がその働きの原動力になりますが、歴史の

中ではその時々でさまざまな状況があり、同じことの繰り返してはなく、「今」何が求められているかを知ることが重要でした。そのことが「本質的なものは忘れないが、常に新しい変化も取り入れていくこと」だったのであり、それが「先見性」でもありました。



1923年12月 震災直後  
家を失った高齢者に 手を差し伸べた

【必要な時に備える】

「今」何が必要な事であるかと考え、気づくとともに、一方で「備える」事も行ってきました。

地域への貢献活動や、利用者・職員を大切にする実践は、その時、その時代に合った方法で行われてきましたし、それまでの常識では考えられないことに取り組んできたのは、奇を衒うことではなく、細かな情報の収集や分析の上で、制度や仕組みが無くても必要だという判断がありました。

全室個室化への取組も、「想い」は最重要でしたが、その達成のためには、当時の関係機関との繰り返し協議や、各方面へ説明・アピールも行い、現場の職員も他では学ぶことの困難な個室ケアの研修を行い、その日に備えて

います。

【コロナ禍の生活】

さて関東大震災から百年が経過し、私たちのコミュニティは豊かになり、手を差し伸べるが必要だったような方たちの生活も豊かになり、課題は解消されているのか？と問うと、残念ながら統計によれば孤独による多くのさまざまな問題を抱えた人たちは、とても多いというのが現状のようです。

コロナ禍にあつて、自粛を求められた高齢者などの「孤立」は特に顕著なものとなり、さらに「引きこもり」となりました。幸いなことに一時に比べコロナ感染症は減少しているようですが、多くの感染者が出た時期の高齢者は、居場所を失くすこと







2023年12月13日 創立百周年記念会

を体験し、そのまま他者との関係を失っている人も多いのではないのでしょうか。  
二〇〇〇年にスタートした高齢者支援の仕組みである「介護保険」制度は、二〇年以上経過する中で、見直しを行い、また新たな支援策も生み出してきましたが、一方その制度に忠実に事業展開していくために、各事業所は同じ運営を求められ、事業所の個性は、排除されつつある状態です。“どこでも同じサービスを受けられる”という点では利用者本位なのかもしれない。新しい事業所に代わっても、同じサービスを利用でき

るという事ですが、選ばれるためにはそこに“私たちらしさ”“東京老人ホームらしさ”が必要で。

【東京老人ホームブランド】

私たちは、“制度に忠実”というだけでなく、“東京老人ホーム”というブランドを大事にしたいと思えますし、“やっぱり東京老人ホームでよかったです”という声を期待してしまっています。

例えば、ホームで生活を始めた方に対しては、出来る限り終の棲家であるべきですし、最期の時は、家族に見守られて旅立っていくのと同じように、最期まで生きてきたホームの仲間や職員と、そしてもちろんご家族とその時を迎えたいと望むのは当然の事ではないでしょうか。

最期までその方らしく生きること、その生きざまに寄り添い続けるのがホームの職員であり、ホームで暮らす方への支援です。看取りケアはその支援の一つとして、さまざまな職種の連携で取り組んでいます。

そこで私たち東京老人ホームは、

①「今」何が求められているかというところに気づき、

②気づいたときは、何を求めているか「先ず目の前にいる(ある)求めに応える」「手を差し伸べる」というキリストの愛の実践

③ただし、本質的なものは忘れないが、常に新しい変化も取り入れていく

④高齢者やその家族など支える職員を大切に作る働きの場を整える

⑤ホームは終の棲家であり、皆その一員で、そのような「希望」のある未来を目指します。

を、私たちらしさと考えています。

私たちのホームについて魅力を感じ、一緒に働いてみようという学生さんなどへの情報発信として、SNSのプロジェクトを立ち上げ、インスタグラムに取り組んでいるのも、その一つです。

【未来への希望】

この四年間のコロナ禍の環境は、それ以前には考えられな経験でした。その中で起こ

た“高齢者の孤独・孤立”の解消は、人生最期の時であることから重要で、家族や地域との絆が途切れないように、その方らしく生き続けていたために、私たちの目指すコミュニティの実現に向けて前進いたします。

元日の午後四時すぎ、テレビでは地震速報が流れ始めました。震度五から七の地震が能登半島で繰り返し起こり、二百人を超える死者が出る大震災でした。私たちは、関東大震災の被災は、実感できませんが、近年の、東日本大震災、阪神・淡路大震災、熊本地震では、情報を間近に感じ、視聴できるようになってきました。その時何が出来たか、「今」何をやるのか、「備えは？」その時何が出来たか。改めて百年前の創設者の気持ちになろうと考えることを求められているのかもしれない。

希望へ向けてスタートした私たちは、どのような未来に向かっていくのか、大いに楽しみです。





## 第三者評価の受審

当法人では、外部の第三者の評価を通してより良いサービス提供の実現を目指し、東京都福祉サービス評価推進機構が承認した評価機関の評価を受けました。

今回の結果を通して気付かされた課題を検討しつつ、より良いサービス提供に取り組みます。

各事業所の評価結果の詳細をご覧になりたい方は、事業所に備え付けの報告書もしくは法人ホームページをご覧ください。① ⇒ 特によいと思う点 ② ⇒ さらなる改善が望まれる点

<p style="text-align: center;">①</p> <p style="text-align: center;"><b>短期入所生活介護めぐみ園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待機者データ整理を西東京市と市内各事業所と協働して最新のものにする仕組みづくりを構築し、地域の福祉に寄与する土台ができた</li> <li>・福祉用具マニュアル作成と職員研修により、入所者の心身状況に合った適切な支援を実現し、生活の質を向上させる。</li> <li>・ショートステイの利用者にも、特養入所の利用者と同様に個人の主体性を尊重しながら、楽しみのある生活を送ってもらう支援が行われる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる一体感の醸成と組織力の向上への取り組みが期待される。</li> <li>・当事業所では利用者の生活を豊かにするために様々な工夫がなされているが、さらに個別のレクリエーションや余暇活動の充実が期待される。</li> <li>・コロナ禍も一因と思われる職員間の連携不足を感じている場面もあった為、意識の再統一が行われる事に期待したい。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">①</p> <p style="text-align: center;"><b>特別養護老人ホームめぐみ園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待機者データ整理を西東京市と市内各事業所と協働して最新のものとする仕組みづくりを構築し、地域の福祉に寄与する土台ができた。</li> <li>・各利用者に適切な福祉用具や尿取り、パットを調査し、マニュアル整備や研修に努め、利用者が快適に過ごせるよう支援している。</li> <li>・百周年を迎えて尚、これまでに以上に福祉、介護サービスを向上させる様な取り組みがある</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p style="text-align: center;">②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の施設の利用者一人ひとりの抱える疾病や障害の状況に合わせて、服薬管理や外部医療機関受診など柔軟な対応を検討する必要がある。</li> <li>・昨年に続き誤薬の発生があり職員間で対策の工夫を重ねているが、服薬自立利用者の誤薬発生について更なる工夫が必要と思われる。</li> <li>・感染状況を確認しながら従来行われていた行事や催事について地域住民や家族交流を踏まえ更なる開催の実現に向けた企画と対策に期待したい。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">①</p> <p style="text-align: center;"><b>養護老人ホーム東京老人ホーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が安全に過ごせるよう医療体制が整っており、入所にあたってスムーズな対応ができる体制を構築している。</li> <li>・養護老人ホームのあり方や利用者の属性・背景が時代によって変化する中で、受け入れ基準を見直し虐待等にも迅速に対応する努力がある。</li> <li>・感染状況を見据えながら、Zoomの活用、中庭での開催など地域交流企画を工夫し昨年度より上回る行事を実施する事ができている。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる一体感の醸成と組織力の向上への取り組みが期待される。</li> <li>・ショートステイの研修内容を改善し、介護職員がショートステイに対する理解を深め、それによって介護職員と相談員の連携を深めたい。</li> <li>・ショートステイであっても、職員の負担は通常利用の特養利用者の受け入れと大きく変わらない為、効率化等を行い負担の軽減を図りたい。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

↓ 前のページ つづき

① 特によいと思う点  
② さらになる改善が望まれる点

軽費老人ホーム東京老人ホーム泉寮

①

- ・職員に対する多岐にわたる研修体系と職場環境の整備などを通じて質の高い介護支援に取り組んでいる。
- ・相談員と居室担当介護職員の連携強化と役割拡大で、利用者支援を強化している
- ・利用者の主体性を尊重し、外部の医療機関を自らの意思で選ぶことができる。

②

- ・老朽化とコロナ禍によって、新たな課題が表出している。
- ・情報のICT化と連続性ある支援への挑戦
- ・情報共有の迅速化に向けた、マニュアルとコミュニケーションの改善に期待したい

めぐみ園ホームヘルプサービス

①

- ・職員の急な休みにチームで対応する仕組みを整え、休暇が取りやすく安心して働ける環境を築き、職員がストレスを溜めないよう図っている。
- ・緊急時や想定外の事態に対しても適切な対応及び安定的で継続的なサービス提供が行える体制をサービス提供責任者が中心に担っている
- ・サービス提供責任者とヘルパーの情報共有、日々のコミュニケーションを高めるさまざまな取り組みがされている。

②

- ・地域の期待に応えるべく安定したサービス供給継続を行う為の人材確保に事業所としての取り組みを期待したい。
- ・個人情報取り扱いに関して、利用目的、利用範囲、保存期間などは、利用者等に対して詳細に説明する書式に改善することを期待したい。
- ・移動を伴う訪問介護固有の課題に焦点を当て、通行や通信困難に対応した事業所独自のBCPの整備が期待される。

めぐみ園居宅介護支援事業所

①

- ・地域包括支援センターをはじめ医療機関やサービス提供事業者などとの情報共有と連携を通じて利用者の支援の質の向上を図っている。
- ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスを組み合わせて、サービス計画の作成や情報提供を行っている。
- ・ケアマネジャーが様々な研修や事例検討の場に参加して、自己研鑽に励み、専門性を高める機会がある。

②

- ・法人としてケアマネジャーの人員増加や定着に繋がる様な対策が望まれる。
- ・マニュアル整備と研修の充実により、職員のさらなるスキルアップと業務効率向上に期待する。
- ・ICT(情報通信技術)化推進による事業所業務の効率化と感染症対策強化、サービス向上に期待する。

「新キャラクター「からっふい」



皆様と共に 「寄り添う」



「考える」



「歩む」



「叶える」



「喜ぶ」



# 創立百周年記念事業報告

## 《創立記念日》

二〇二三年二月一三日、法人創立百年を迎え、徳野昌博理事長の司式による記念礼拝をはじめ、記念式典や記念講演などが行われました。

法人創立当初の思いに立ち返り百年という長い年月をご利用者と職員、地域の方々と共に歩んでこれられましたことと大変喜ばしく、感謝申し上げます。

## 《午前の部（記念礼拝及び式典・新ロゴマーク・新キャラクター）》

創立記念日当日、一時より記念礼拝、記念式典で行われ関係者の方々からご祝辞、ご利用者からもお祝いの言葉を頂戴しました。職員の勤続表彰も行われ一〇年表彰五名、二〇年表彰四名が表彰を受けました。その後、



創立百周年記念礼拝



社会福祉法人  
**東京老人ホーム**

職員及び施設のご利用者を対象とした東京老人ホーム川柳の入賞者表彰。特筆すべきは、この百周年を記念として作られた、法人の新ロゴマーク、新キャラクターのお披露目を行ったことです。この新ロゴマークは東京老人ホームが皆さまと共に未来への希望に向かって新たなスタートを切り、更なる歩みを進めていきたいという強い想いを表現しています。



「ぽぽたん」と「ふらっふい」

ます。新キャラクターについては創立九〇周年に誕生した『ぽぽたん』の仲間『ふらっふい』といえます。これは、ぽぽたんが表現している想いのさらなる実現に向けご利用者、ご家族、職員、地域の方々と共に歩み、皆さまにその想いをお届けし、広がり続けていくことを表現しています。詳しくは当法人のホームページに掲載しております。

## 《午後の部（記念講演・座談会・おしゃべり音楽会）》

午後の記念講演では現在の法人施設の建設特に職員とともに研究・ご尽力いただきましたルーツ学院大学名誉



「おしゃべり音楽会」

教授市川一宏先生より『わたしたちの未来へ希望へのスタート』というテーマで講演いただいたとき、法人の起源やその思い、現在の建物（施設の個室化）や地域とのかかわりなど様々な取り組みについて振り返るとともに、未来に向けてメッセージをいただき、職員にとって大切な学びの機会となりました。

その後、職員四名による座談会（テーマ：次の百年に向かって）や、記念コンサート『おしゃべり音楽会』が行われ、百年という大切な節目をお祝いすることができました。



## 第四七回 栄養士のパレット

いろいろな食の話題を紹介するコーナー

### 自律神経の乱れに注意

自律神経とは活動時に優位になる「交感神経」と、リラックスしているときに優位になる「副交感神経」があり、状況に応じて交互に働き、最適になるように微調整され、内臓の働きや代謝、体温調整など生命を維持するための全ての機能を二四時間コントロールしています。

心身のストレスや不規則な生活が続くと自律神経のバランスが乱れ、この微調整がうまくいかなくなり、さまざまな不調が現れることとなります。現代社会で多く見られるのは、交感神経が働きすぎて過緊張になる不調です。自立神経が乱れる事で生じる不調は、血流が悪くなり、頭痛や肩こり、手足の冷えやしびれ、倦怠感や不眠、耳鳴り、めまい、眼精疲労、動悸、のどや胸のつかえ、腰痛、頻尿と、実にたくさんあります。自律神経は全身のすみずみに張り巡らされ、内臓や器官の働き

を調整しているのです。さまざまな症状が出てくるのです。体の不調に伴い、不安やイライラ、気分の落ち込み、意欲の低下などの精神的症状も現れやすくなります。

#### 『自律神経の乱れを整える』

自律神経を整えるためには、「生活のリズムを整える」「ストレスを解消する」など良くいわれていますが、「腸」から整える方法のお話をしたいと思います。

人間の腸は、主に副交感神経が支配しています。副交感神経が優位に立つことで食材からの栄養を消化吸収できます。腸内環境が乱れ、下痢や便秘になるとストレスによって交感神経が優位になり、自律神経のバランスが崩れてしまいます。そのため、自律神経のバランスを整えるために、腸内環境を整える事が大切です。

腸内環境を整えるには、腸内の善玉菌を増やす必要があります。善玉菌を増やすには、善玉菌を多く含む食材と、善玉菌の

多く含まれる・善玉菌のエサとなる「発酵食品」「食物繊維」を並行して食事に取り入れることで、腸内環境の改善が期待できます。

そこでホームで良く使用する発酵食品の「こうじ」のお話をします。こうじは昔から使われていますが、最近では調味料として注目されています。含まれる消化酵素の働きで、野菜の甘みを引き出したり、肉を柔らかくしたり様々な効果があるため、色々な献立に使用できます。こうじはほんのり甘くみりんに近いもので、焼き物・煮物・和え物なんにでも使用できます。豚肉などを漬けて置いておくと、消化酵素の働きでしっとりやわらかくなります。魚に使用すると生臭さを消し保水性を高めます。野菜を漬けて置くことで簡単に浅漬けが出来ます。

ホームでは「発酵食品」「食物繊維」を使用した朝食を提供しています。ほぼ毎朝色々な野菜・海藻の入った味噌汁が出ます。ヨーグルトや納豆・漬物などの発酵食品も提供されます。今回はホームの朝食を紹介したいと思います。

ご飯・味噌汁・漬物を基本としています。

#### ホームの朝食



厚揚げの煮物と  
きゅうりの和え物



さつまあげと  
なすのしそ炒め



煮豆と野菜炒

# ぽぼたんカフェ 入居者の方対象イベント

2024年5月18日(土) 14:00~15:30

ぽぼたんカフェを 5年ぶりに開催いたします！(中庭を会場とします)

## 【内容】

- ドッグショー&かわいいワンワンとのモフモフタイム
- 養護、軽費入居者の方々による音楽クラブ発表(14:30~)
  - ・デザートと飲み物は各施設で提供し、入居者の方のみのご用意です。

※中庭でのドッグショー・音楽クラブ発表は ご家族様も見学頂けます。

詳しい時間については各施設にお尋ねください。



公式Instagramを開設しました。

主に採用活動に繋げることを目的に運用していますが、職員の働きぶりなどご覧いただき、「フォロー」や「いいね」をお願いします。

右のQRコードか、Instagramアプリのユーザー名「tokyorojinhome」で検索してください



@TOKYOROJINHOME

東京老人ホームに関するご案内は、ホームページをご覧ください。

<https://www.tokyo-rojin-home.or.jp/>

又は 検索サイトで東京老人ホーム を検索

又は、右のQRコードから



お問い合わせ  社会福祉法人 東京老人ホーム  
住所 〒202-0022 東京都西東京市柳沢4-1-3  
電話番号 042-461-2230  
FAX 042-461-2280  
ホームページ <https://www.tokyo-rojin-home.or.jp/>  
発行 2024年4月30日 第81号(年4回発行)  
☆ご意見ご要望をお寄せ下さい!

## 編集後記

創立百周年最終号をお届けいたします。「特集」では各部門の担当者からこれからの東京老人ホームについて述べてきました。私たちは、次の百年・二百年に向けて歩み始めていますが、その一つが「東京老人ホームブランド」であろうかと考えています。

百年を記念して、新しいロゴマークになりました。また、ぽぼたんの仲間に新キャラクターが加わりました。綿毛の「ふらっふい」が皆様の元にさまざまなことをお届けします。

久しぶりに「ぽぼたんカフェ」の準備を始めています。